

上智大学におけるCOIL

● COIL (Collaborative Online International Learning)とは?

オンライン国際協働教育。

オンラインで海外大学と接続し、授業内で交流をおこなう教育手法として促進している。

● COILの意義

- 経済的、身体的、カリキュラム等の制約がある学生への、国際交流機会の提供。
- 2か国以上との協働学習や比較学習が容易に可能。
- 「科目」が連携の単位になることによる、教育手法の多様化と、教員間ネットワークの醸成。
- オンラインと対面を組み合わせた、新たなグローバル教育の形。

● 連携の手法例

- Zoomを活用した同期接続。
- メッセンジャーやSNSを活用した、非同期のディスカッション。
- 講義や学生発表の録画を交換し、フィードバックやQ&Aを行う。

上智大学は、2018年度「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等の大学間交流形成支援～」にお茶の水女子大学・静岡県立大学と合同で採択されています。

COILの事例紹介 1

【科目】 「国際協力方法論」 看護学開講科目

【テーマ】 若者の性教育の国際比較

- 3か国4大学（上智大学、静岡県立大学、米国ポートランド大学、モンゴル医科大）間でZoomによる同時接続。
- 各大学の学生が、自国の性教育に関するプレゼンテーションを行った上で、テーマや看護教育に関する質疑応答とディスカッションを行った。
- カリキュラムや国家試験の兼ね合いから留学が困難であるが、グローバル化が進む中での看護学生の国際教育というミッションに寄与。

参加学生の感想

- 留学が難しい看護学科だからこそ、上智大学に入学時に期待していたグローバルな体験ができてうれしかった。
- 国境を越えたオンライン学習という非日常感に興奮した。
- 看護学の学生として、同じ夢を持った仲間と国境を越えて同じトピックについて共有し、議論できたことが嬉しかった。

日米交流

国内連携

途上国との交流

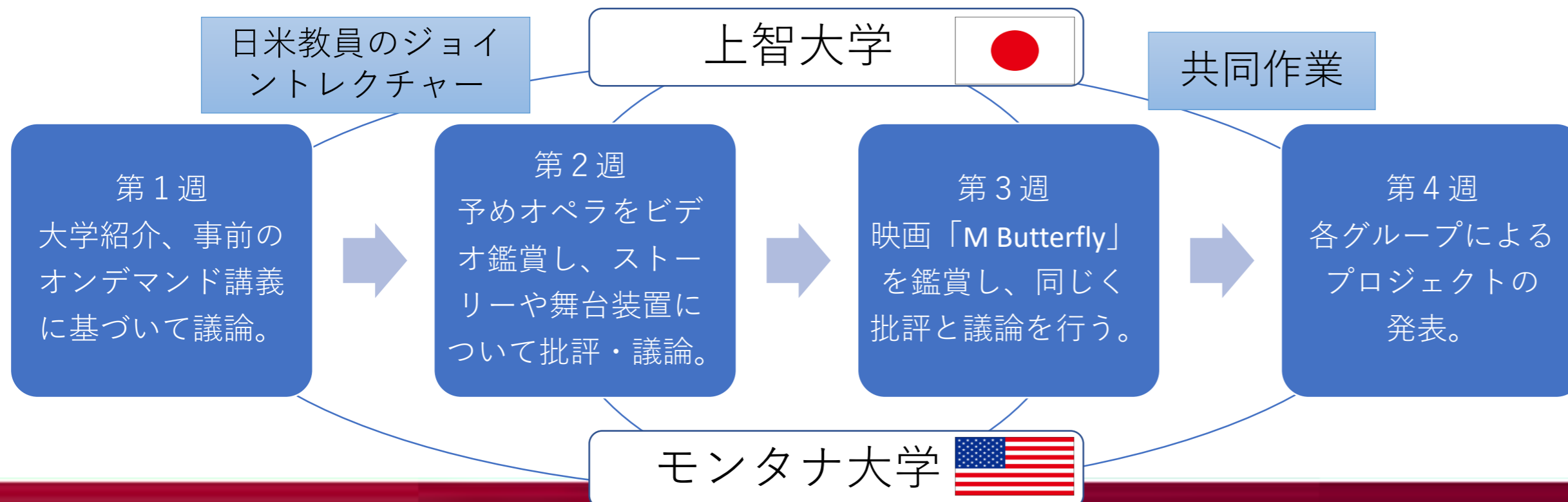


COILの事例紹介 2

【科目】 「Modern Japanese Art History」 国際教養学科 開講科目

【テーマ】 舞台「蝶々夫人」を題材とした協働学修

- 米国モンタナ大学と、Zoomの同期接続講義、非同期グループワークを組み合わせた連携。
- 上智は美術史、米国は舞台芸術の科目で連携。舞台「蝶々夫人 / Madam Butterfly」を題材とする。4週間、米国は舞台装置（衣装、大道具等）の作成、日本は歴史的見地からデザインの批評、をそれぞれ担当し、日米混合グループにて、議論とグループワークをおこなっていく。
- 理論と実践という芸術教育の両側面を、COILを使って繋いでいくこと。また、米国におけるアジア人の描かれ方や、近代日本の描き方について、国際比較を通して学ぶ。



COILの事例紹介 3

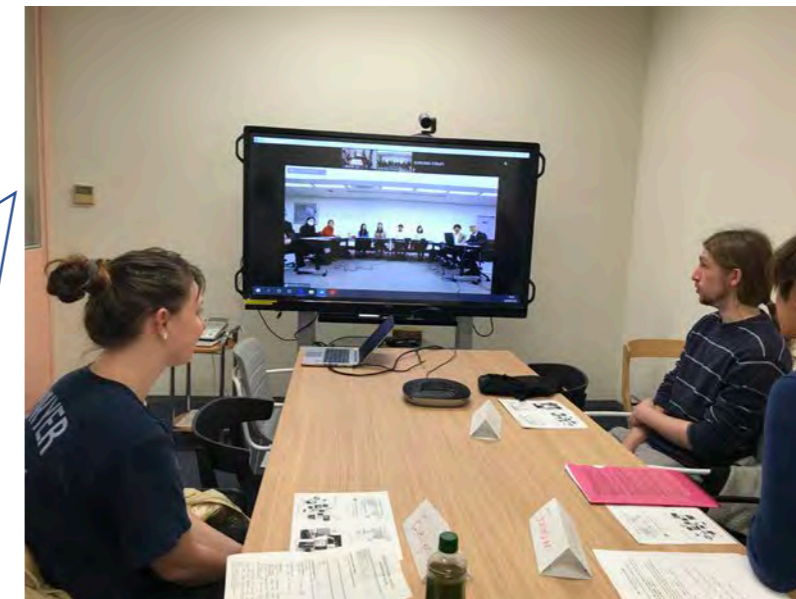
【科目】 「静岡スタディツアー」 静岡県立大学との連携プログラム

【テーマ】 静岡県内産業、社会文化について

- 上智大学と静岡県立大学を繋いだ国内COIL。
 1. 静岡県国際経済振興会から講師を招き、受入留学生を対象としたオンライン講義を受講。
 2. その後、「静岡スタディツアー」に参加し、県内企業への訪問や学生交流に参加する。
- ツアー前に県内産業や社会文化について学び、また静岡県立大学学生と事前交流することで、実際のツアー時に向けた準備や、目的意識の確認をおこなう。
- 短期間の交流プログラムであっても、オンラインと組み合わせることで、学習効果を向上できる。

参加学生の感想

- 静岡の企業、産業について留学生と一緒に学ぶことで、色々な新しい視点をお互いに得ることができた（静岡県大生）
- 静岡で新しい友人ができてうれしかった。このツアーのおかげで、彼らと再会するためだけに静岡に再訪したい（留学生）
- 私は留学経験もなく、2泊3日一緒に外国人と行動することは初めてでした。しかし、メンバーにも恵まれ、また英語で会話することにチャレンジした結果、大変貴重なツアーとなりました（静岡県大生）



(上) 事前のオンライン講義



(右) ネジ工場の見学